

ウォーター・

ウィール

— 濱崎 夫妻に —

水車はひとつ

白い月の晩に回る

苔むした緑の環は

音もなく回る



月は黙して

穏やかな池に浮かぶ

寝静まった

都会の屋根を

静かに照らす




公園の猫の毛を

柔らかくしめらせ

故郷に帰る人を見守り

月は白く浮かぶ

A lush green forest with large trees and sunlight filtering through the canopy. The ground is covered in fallen leaves. The text is overlaid on the left side of the image.

水車は研ぐ
魂のよろこびを
しずくを散らせ
音もなく
深き森に降り注ぐ



水車は回る

秋の天空のなか

いびつで名もなき


優しき人生とともに

水車はひとつ

ただ二つの環とともに

確かめ合うそして

世界は復元される



右は左になり

上は下になり

山は谷になり

丘は海になる

やがて見る



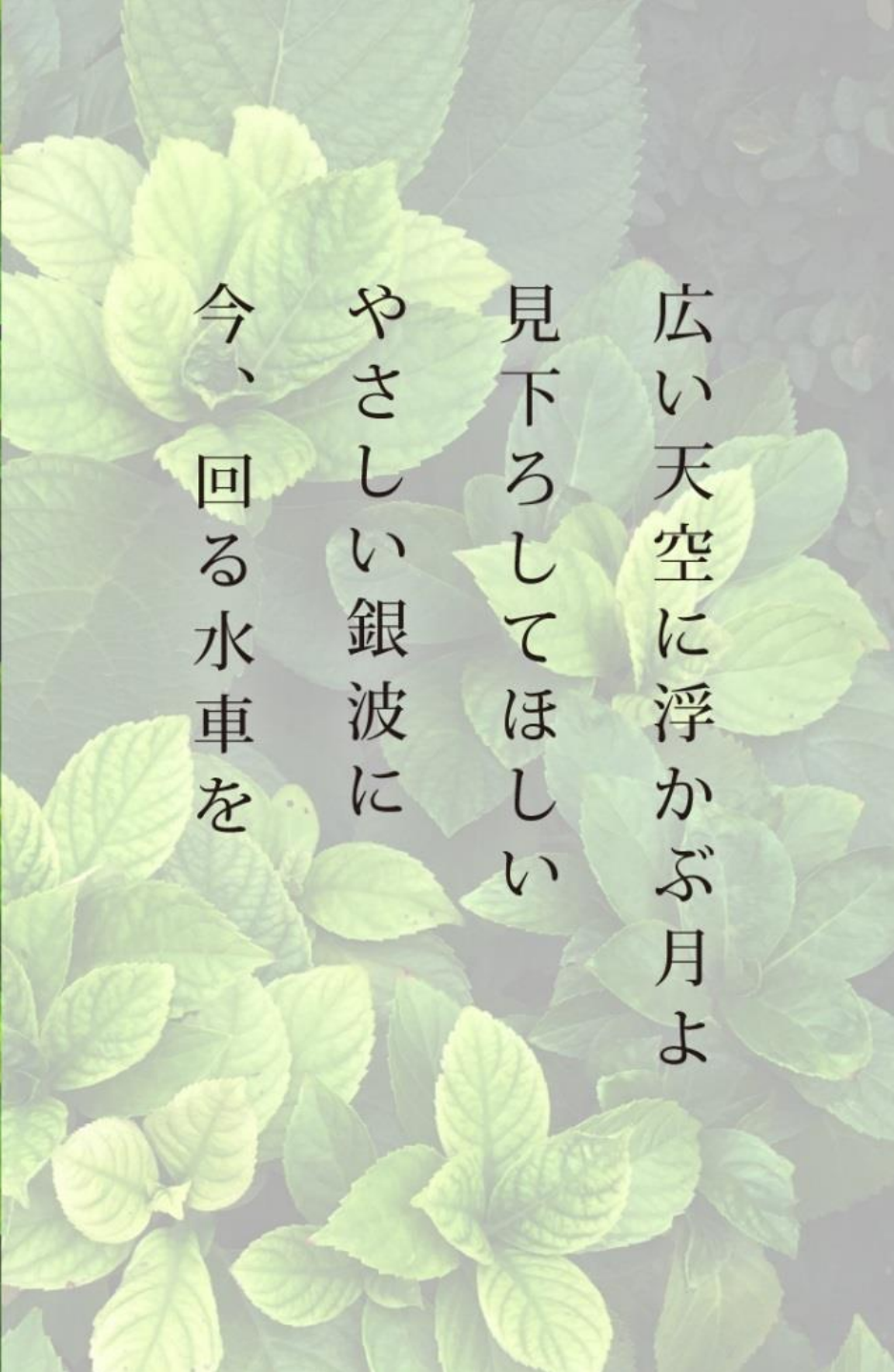
新しい世界を



そこに試練があるのなら
乗り越えればいい

なんでも、なんどでも

それは希望の別名だから




広い天空に浮かぶ月よ

見下ろしてほしい

やさしい銀波に

今、回る水車を



ひたしてほしい
この清らかな宴を
やはらかな秋の陽で
風わたる紅の洪水で

水車はめぐる

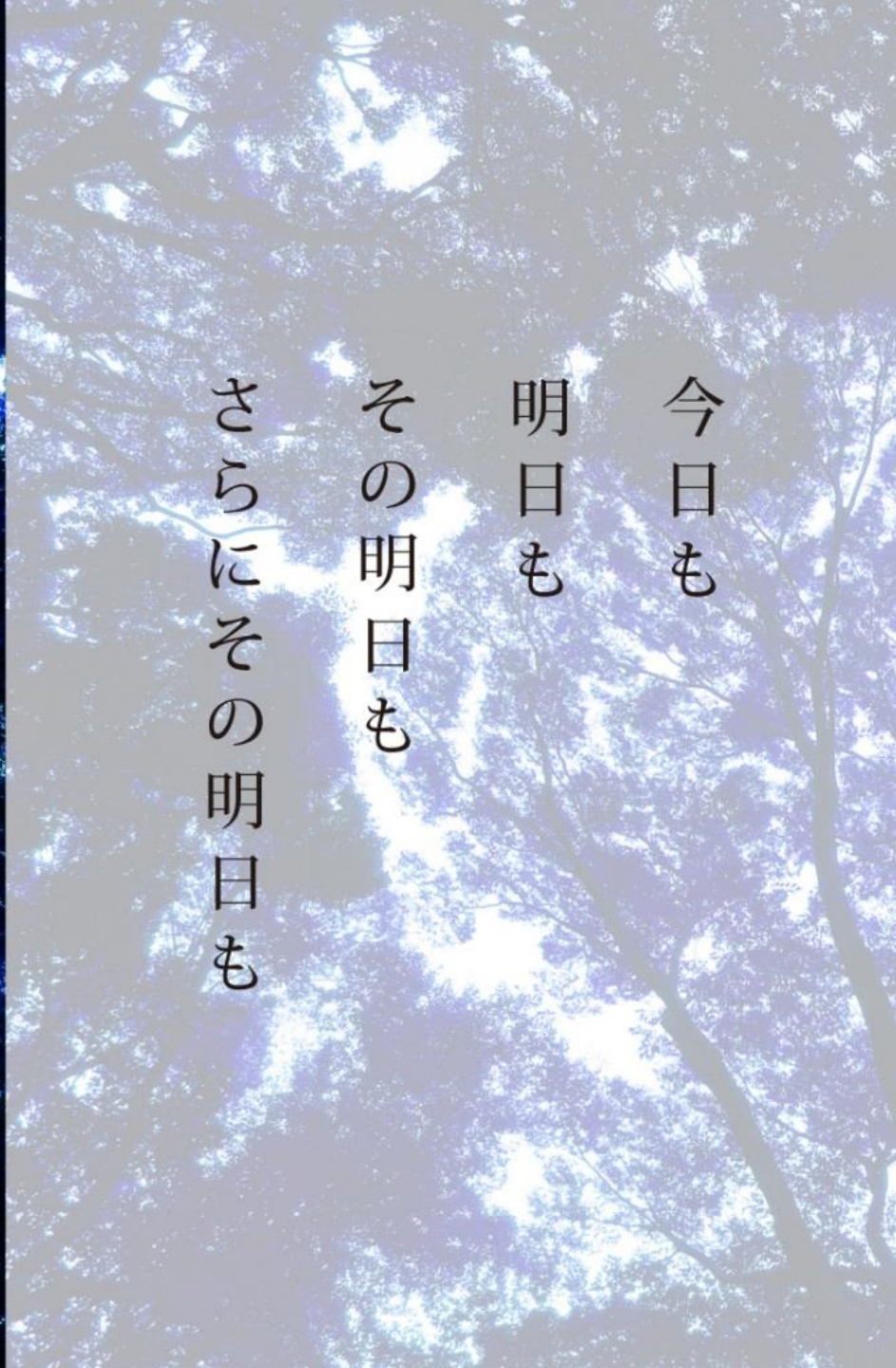
自らを遍在させ

森や丘を養い

優しく時はめぐる

白い玉砂利を濡らす
気高き水のごとく
洋々として
水車はめぐる





今日も

明日も

その明日も

さらにその明日も



われらの父祖が

生きてきたように

変わることなく

そして

永遠に





平成28年11月5日

詩・音楽
井坂康志